

令和9年度研究計画に係る事前評価結果

1. 日時： 令和8年9月29 日(火) 9:55～14:45

2. 場所： 福岡県工業技術センター

3. 研究課題評価委員（敬称略）

仲 孝幸	公益財団法人 飯塚研究開発機構 テクニカルコーディネーター
藤本 潔	公益財団法人 北九州産業学術推進機構 産学連携センター 研究支援グループ統括部長
高倉 剛	公益財団法人 福岡県産業・科学技術振興財団 産学コーディネータ
植村 聖	国立研究開発法人 産業技術総合研究所 九州センター 所長
権藤 孝雄	株式会社 久留米リサーチ・パーク テクニカルコーディネーター
我妻 広明	九州工業大学大学院 生命体工学研究科 教授
尾方 義人	九州大学大学院 芸術工学研究院 教授

4. 評価結果： 事前評価 6課題（課題評価結果一覧(事前評価) 参照）

5. 講評(要約)

- 今回、これまでの経験を活かすテーマと、新しい挑戦のテーマの発表がなされ、それぞれについて可能性と解決すべき課題が見受けられた。実施にあたっては、機械加工などの技術を別の分野に応用したり、逆に他分野の優れた技術を取り入れたりするなど、分野の枠にとらわれず柔軟に取り組みを進めていただきたい。
- 直近の課題解決よりも新しいニーズを先取りした技術開発のテーマが多かった。しっかりと技術を咀嚼しながら研究開発を進めようとしており、これらの取組はセンターの足腰を強める一方、すぐに結果は出ない面もある。数年後の企業への技術導入は困難で大変だとは思いますが、企業が最も求めている「費用対効果」にどう繋がるのか、分かり易く説明する工夫が大切。各企業の導入障壁が何かを意識して研究開発を進めていただきたい。
- 安価・省力化・生産性向上というテーマがあったが、提案した解決方法について、設備投資による費用対効果が十分にあるかを常々チェックし、場合によっては方法を変更していくことが重要。基礎データを取って企業に展開するテーマについては、どれくらい広く役立つかを意識し、対象が狭い場合はニーズの掘り起こしを実施していただきたい。
- 中長期戦略的なテーマが多かったが、企業の目線からすると少し時間軸が長いように感じた。県単独予算での研究開発であれば、社会実装までの期間は長くとも 2～3 年程度でイメージいただきたい。基礎研究が 5～10 年先の実用化、プロジェクト研究が製品化のための技術開発ということがイメージされるので、区別の表現については分かり易くしていただければと思う。各テーマは面白いものが多く、半年後の中間報告も楽しみにしている。

- 各自が出された実験データこそが信頼できるものであり、何が信頼できるかを必ず押さえたうえで、AI 等の活用を進めていただきたい。モデルベース開発は高いクオリティでゴールにたどり着ける手法であり、近年中小企業にも比較的導入し易くなっているため、センターとしても活用していくといい。センターは学術的な面だけではなく、県内の中小企業をどのように支援できるかを常に考えており大変すばらしい。また若手職員のチャレンジも見受けられる。引き続き頑張ってください。
- 社会実装を目指しているテーマが多く、デザインの視点から見ても、研究がインダストリアルやエンジニアリングとして社会と結びつくことが重要であり、素晴らしいと感じた。研究結果が活用されるために、特定の業界内にとどまらず、幅広い企業に向けて開発した技術の使い方やアウトプットを出すためのサポートを行うと研究の価値がより高まる。また、センターの研究プロセスについては一つの形としてモデル化できるものがあるように感じる。その手法を他の業務に活用することも十分効果が期待できる。